

## 1. 単元名 「防災プロジェクト～住み続けられる玄界島を～」

### 2. 単元の目標

- ・ 福岡西方沖地震について知るとともに、玄界島で起こりうる災害やその災害が起きた場合に避難する方法や場所、避難生活時に必要な物を調べ、まとめることができる。 (知識・技能)
- ・ 玄界島で起こりうる災害について、これまでの生活経験や災害図上訓練 (DIG) から想像し、災害や避難の仕方など調べたことについて、地域の人に分かりやすく伝える表現物を考え作成することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 玄界島の人が、災害から身を守り、これからも安心して住み続けてほしいという目的意識をもち、意欲的に災害や避難の仕方などについて、調べまとめる活動ができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、平成17年3月20日に発生した「福岡西方沖地震」で、もっとも震源地に近く、多くの被害を受けた玄界島に住んでいる子どもたちが、これから起こりうる災害から自ら身を守り「住み続けられる玄界島」を目指すことを取り上げた教材である。

福岡西方沖地震から17年が経過し、地震のことをほとんど知らない子どもたちに、実際に地震を経験した当時の漁協の組合長の方にGTとして招聘し、当時の様子について、写真を見せながら話をしていただく。その写真の中には、自分の家族が実際に避難している様子のももあり、より身近に感じさせることができる。

また、災害図上訓練 (DIG) を行い、危険な場所や災害が起こりそうな場所、多くの島民が避難できる広場などを確かめることを通して、玄界島の特徴を把握させるとともに、災害に遭った場合の避難経路や避難場所を、普段の生活の中で意識させることができる。

これらの活動をもとに、「防災キャンプ」を学校で行い、災害が起きたときの避難の仕方や避難場所を確認、怪我をしたときの応急処置の仕方や夜間歩行訓練を行うなど、実際の災害を想定した体験をさせる。体験を通して、それらのことを身に付けさせ、実際の災害時に生かす事ができると考える。

#### (2) 児童観

本学級児童は、男子2名、女子1名の計3名の少人数学級である。第5学年において「防災プロジェクト」の学習を、当時の6年生と経験しており、今回は二度目の学習となる。この活動を通して、福岡西方沖地震や様々な災害について調べ、地域の人に提案する活動を経験している。また、防災キャンプも行い、実際の災害を想定した避難生活などを経験している。

今回の活動では、前年の経験を生かし、災害の事だけでなく、実際に避難する際に気をつけることや必要な物など、インターネットで調べたり家族に取材したりして、表現物にまとめたもの

を地域の方に提案する活動を行う。身近な島の人に提案するという目的をもたせることで、本課題に意欲的に取り組むことができると考える。また、本活動は、5・6年生、中学1年生と連続して行い、繰り返して様々な活動を行うことから、防災の知識や技能を深く習得することに大きな意義があると考えられる。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、平成17年3月20日に起こった「福岡西方沖地震」について学ぶ。当時の漁協の組合長の方をGTとして招聘し、当時の様子について写真をもとに話してもらおう。また、災害図上訓練(DIG)を行い、玄界島の危険なところや避難できる広場などを図上で色分けをしながら、玄界島の特徴を確認していく。GTの話や災害図上訓練の活動をもとに、災害から島民を守るという学習課題をつかませたい。また、今年の活動も想起させ、災害を知らせるだけでなく、身を守る避難について提案する活動を行うことを意識させたい。

次に、玄界島で予想される災害を話し合い、話し合いでそれぞれの災害ごとに分かれ、「①災害について」「②避難の仕方と場所」「③避難生活について」の3つの視点で調べるよう指導する。調べ活動の際は、実際に多くの家族が福岡西方沖地震を経験していることから、両親や祖父母などの家族に取材するように助言を行う。

提案するスライドを作成する際は、一枚のスライドに短いキーワードで示すこと、大きい文字で示すなど、見る相手は高齢者が多いことを想定し、「見やすさ」と「分かりやすさ」を意識させながら作成をさせる。

さらに、防災キャンプの活動の中で、今回のスライドを紹介できる場を設定し、島民の方に紹介していきたい。

これらの活動を通して、「住み続けられる玄界島」に役立つことかできたということ振り返らせ、今後も、島の防災・減災のために、自ら率先して活動したいという思いをもたせるよう、定期的に玄界島の防災活動について振り返っていきたい。また、玄界島の島民だけでなく、ほかの学校とオンラインで今回作成したスライドを紹介できる場を設定していきたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性…防災・減災を行うには、家族はもとより島民全員で協力して行わなければならない事であり、島民全員の協力がなければ、再び災害によって大きな被害を被ることになる。

公平性…防災・減災の知識や技能は、子どもから高齢者までの島民全員で共有されてこそ生かされる物であり、災害時に被害を最小限に抑えることができる。

責任性…災害から島民全員の生命を守るために、若い世代を中心に役割分担をし、災害の被害から島民全員の身を守る行動をとることが重要である。

#### ・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来を予測して計画を立てる力

災害図上訓練(DIG)をもとに、玄界島で起こりうる災害を予想し、その防災・減災の方法を調べたり避難の仕方や避難場所の確認をしたりし、被害を受けない、命を守る行動の計画を立てる。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

災害の種類によって、またその度合いによって避難の仕方や避難場所が変わることを知り、様々な避難の仕方や避難場所のパターンを考える。

進んで参加する態度

玄界島の全島民が、安全・安心で住み続けられるために、災害時に自分ができることはなにか考え、意欲的に災害や避難の仕方について調べたり、防災・減災に関する知識や技能を習得しようとしたりする。

#### ・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

福岡西方沖地震の災害から学んだことを生かし、今後、玄界島で起こる災害を予想し、起きた場合の避難行動や経路、場所などを家族や友人などと、普段から話し合うことが重要である。

自然環境や生態系保全を重視する

災害が起きにくい土地にするために、遠見山の自然環境を守ったり、海岸線の掃除を行い海の生き物を守ったりすることが大切である。

幸福感であることを大切にする

玄界島の島民みんなが安全に避難するとともに、避難生活において、みんなが快適に生活することが大切である。




#### ・達成が期待されるSDGs



- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 5 森の豊かさを守ろう
- 1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう

#### 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 災害について、どんな被害を起こすのか理解し、日常的にどんな備えが必要なのか、また、避難経路や場所など、防災や避難についての知識について理解している。	① 住み続けられる玄界島にするために、災害が起こりやすい場所や避難できる場所などの島の特徴をつかみ、安全に避難できる方法を考えることができる。	① 住み続けられる玄界島にするために、玄界島で起こる災害を予想し、命を守るためにどのような避難をすればいいのか意欲的に調べることができる。
② 災害や避難について調べたことを、ICTを活用して、図や表などを用いてまとめる技能を身に付けている。	② 災害や避難について調べたことを、ICTを活用して伝えることができる。	② 調べた災害や避難について、玄界島の島民や島外の方に積極的に発信することができる。

5. 単元の指導計画（全21時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1 福岡西方沖地震について知り、玄界島の防災についての学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福岡西方沖地震について知る。</li> <li>様々な災害について話し合う。</li> <li>防災について話し合う。</li> <li>学習課題を設定する。</li> </ul>  <p>GT から西方沖地震の話聞く子ども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡西方沖地震について、当時の漁協の組合長の方に GT として来校していただき、小学校に掲示してある写真をもとに当時の様子のお話を聞かせることで、災害や防災に対する意識をもたせる。</li> </ul>  <p>西方沖地震について話す GT</p>	<p>△ア① （知・技）</p>
2	<p>2 玄界島で起こる災害や避難について調べ、発表に向けて表現物にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>玄界島で予想される災害について話し合う。</li> <li>災害図上訓練（DIG）を行う。</li> <li>災害や避難について調べる。</li> <li>表現物にまとめる。</li> </ul>  <p>GT の話を聞きながら DIG を行う子ども</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害図上訓練（DIG）を行い、災害が起こりやすい場所や大勢が避難できる場所など、玄界島の特徴を把握させる。</li> <li>表現物を作成させる際は、相手意識をもたせ、見やすい表現物作成をさせる。</li> </ul>  <p>災害図上訓練（DIG）の GT</p>	<p>△イ① （思判表） △ア② （知・技） △ウ① （主体的）</p>
3	<p>3 防災キャンプに参加し、災害時の避難を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応急処置、心肺蘇生法について知り、訓練する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本赤十字社の方を GT として招聘し、災害時に活用できる応急処置や心肺蘇生法の訓練をさせる。</li> <li>防災教室では、声の大きさや話す速</li> </ul>	<p>△ア① （知・技） △ウ② （主体的）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教室を行い、調べた災害や避難について発表する。</li> <li>・ 夜間歩行訓練を行う。</li> </ul>	<p>さなど、相手に伝わることを意識させる。</p>	
	 <p>調べたことを発表する子ども</p>	 <p>日本赤十字社の方 (GT)</p>	
4	<p>4 これまでの活動を振り返り、住み続けられる玄界島にするために、自分に何が出来るか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を振り返り、自分も玄界島を支える一人だということを意識する。</li> <li>・ 住み続けられる玄界島にするために、継続して自分が出来ることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、活動が継続するように、自分も玄界島を支える島民の一人だということを、これまでの学習を振り返りながら意識させる。</li> <li>・ 住み続けられる玄界島にするために、今後の自分が出来ることを考えさせる。また、定期的に活動を振り返り、継続への意欲を維持する。</li> </ul>	△イ② (思判表)

## 6. 成果 (○) と課題 (●)

### ① 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方) について

- 相互性において、自分だけでなく、家族や近所の方、いつも声を掛けてくれる地域の方も一緒に助かることが大切だということに気付かせることができた。その大切な島民の方を、災害から守るためには、一人の力では難しいことや高齢者だけでは避難ができないこと、自分たちも含めた島民全員が協力して災害から身を守る行動をすることが大切だということにも気付かせることができた。
- 責任性において、玄界島の現状から、高齢者が多く居ることを再認識することができただけでなく、高齢者だけで避難することが難しいことも気付かせることが出来た。また、島民全員の生命を守るには、若い世代の役割が重要だと感じ、その中で小学校6年生が出来ること「避難の仕方や避難するときに備えるものを教える。」「手と取って一緒に逃げる。」など、自分たちが出来ることを考える姿が見られた。
- 公平性において、防災や減災について獲得した知識や技能を、島民の方に発表する場を設定していたが、諸事情によりできなかった。子ども達も、島民の方に発表することを楽しみにしていたので、どこか機会を見つけて行えればと考えている。

### ② 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力について

- 未来を予測して計画を立てる力において、災害図上訓練 (DIG) を通して玄界島の地形の特徴を知ることができた。また、災害が起こりやすいところだけでなく、災害が起こった際に、多くの

島民がすぐに避難できる公園や広場についても確認することができた。そのことをもとに、災害が起きたときの避難場所や経路を考える計画を立てる姿がみられた。

- 進んで参加する態度において、玄界島の島民を災害から守りたいという気持ちが強く、GTの話や災害図上訓練、災害についての調べ学習をなど、防災・減災に関する知識や技能を習得することに意欲的に取り組む姿が見られた。
  - 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）において、「地震」「大雨・台風」「土砂崩れ」の3つのグループに分かれ、それぞれ、災害のしくみや災害が起きた場合の避難方法などについて調べたが、お互い調べたことの交流の時間を十分設定することができず、様々な災害についての避難の仕方や避難場所のパターンを考えさせるまでには至らなかった。
- ③ 本学習で変容を促すESDの価値観について
- 幸福感であることを大切にすることについて、災害が起こっても、玄界島の島民みんなが安全に避難するとともに、避難場合の生活が少しでも快適になるよう、避難場所までの避難経路や事前に備えておいたほうがいい物など、意欲的に調べたり、同じグループの友だちと話し合ったりするなど、島民みんなの安全・安心を考えながら学習に取り組む姿が見られた。
  - 世代間の公正について、本学習中は、友だち同士で防災・減災や災害の避難方法などについて話す姿は見られたが、学習後、普段から友だち同士や各家庭で話すまでには至らなかった。今回の学習で学んだことについて、教師の方から意識して定期的に話題を子ども投げかけたり、学級通信などで家庭に話題を提供したりする手立てが必要だった。
  - 自然環境や生態系保全を重視することについて、災害の仕組みや避難方法などについて調べて発表することまでに留まり、災害が起こりにくい土地（島）にするために、自然環境を守ったり、島や海岸線の清掃を行い海の生き物を守ったりすることが、防災・減災につながることにまでに考えが至らなかった。

現在の学年終了時に目指す姿

住み続けられる玄界島にするために、防災・減災の意識をもって生活するとともに、島民の一人として、地域の人と協力して、避難活動を積極的に行うことができる。



社会科「ともに生きるくらしと政治」

私たちの暮らしは、日本国憲法の考え方によって、誰もが安心して暮らす権利がある。公民館や学校施設も、税金を使って建てられ、運営されている。

家庭科「朝食から健康な1日の生活を」

短時間で簡単に調理できる食事について考える。避難生活時においても、限られた材料で食事をするための知識や技能が必要になる。

学校行事「避難訓練（地震対応）」

地震が起きた際の避難方法や避難経路などを確認し訓練する。学校には防火扉があり、その役割や通り方を知り、実際の避難時に役立てる。

総合「遠見山登山」

遠見山に山頂で、災害救援用炊飯袋を使って炊飯し、避難時の食事の実験をする。

総合的な学習の時間

「防災プロジェクト～住み続けられる玄界島を～」

○主に養いたいESDの資質・能力  
未来を予測して計画を立てる力

災害図上訓練（DIG）をもとに、玄界島で起こりうる災害を予想し、その防災・減災の方法を調べたり避難の仕方や避難場所の確認をしたりし、被害を受けない、命を守る行動の計画を立てる。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

災害の種類によって、またその度合いによって避難の仕方や避難場所が変わることを知り、様々な避難の仕方や避難場所のパターンを考える。

○主に育てたいESDの価値観

・世代間の公正  
・自然環境や生態系保全を重視する

全島避難訓練

理科「私たちの生活と環境」

私たちの生活は、空気や水、動物や植物などの緊急と深く関わっている。私たちの住んでいる玄界島も、様々な自然に囲まれており、どんな特徴があるのか理解し確認させる。

理科「土地のつくりと変化」

地震が起こると、土地が盛り上がり沈んだり、崖が崩れたりして、土地の様子が変化する。玄界島にある山の斜面も、地震や大雨が降ることによって崖崩れがあることを知る。

国語科「地域の施設を活用しよう」

玄界島にはどんな施設があるのかを知るとともに、その役割について理解する。そして、その施設をどんなときに活用できるのかを考えることで、避難施設を知ることができる。